

発行：安佐南区花いっぱい運動推進委員会事務局（安佐南区地域起こし推進課内） ☎ 831-4926 FAX 877-2299

【祇園西支部】 報告者：森川 数夫

してもともとです。気軽にやってみましょう。

冬の園芸

寒さの厳しいこの時期、園芸は一休みという方が多いかもしれませんが、冬の間にも色々な仕事があります。

① 年間の計画を立てる

1年中咲き続ける花はありません。春花壇・秋花壇に何の花を植えるか、配色・デザインを決めておくと、必要となる花苗の数が決まってきます。思いついたことをメモしておきましょう。

② 容器や機材の片付け

使ったものがそのまま放置されてはいませんか。プランターや鉢の隅には、ナメクジが潜み、卵がいっぱい産み付けられています。病原菌も同様です。水で洗い流しておきましょう。

③ 落ち葉は宝物です



落ち葉は放っておくと肥料になると考える人もおられると思いますが、そのまま放置していても病原菌の温床になるだけです。

しかし、落ち葉と水と米ぬかを混ぜて発酵させれば「落ち葉 100%完熟腐葉土」の出来上がりです。

④ この冬、挿し木ができます

挿し木で増やせる樹木は結構あります。たとえば、ネコヤナギ・アジサイ・ウツギ等が有名です。

安東支部の川手さんから聞いた「オタフクナンテン」の挿し木を実践してみました。失敗



【沼田支部】 報告者：中村 能彦

葉牡丹の育苗は、とほほの結果に…

花が少ないこの季節。華やかな花壇や寄せ植えを作るには、やっぱり葉牡丹でしょう。



葉牡丹作りに挑戦し5年余りとなりますが、中々うまく育てることができません。

7月下旬から8月初めに種蒔き（品種は紅白のはと、かもめを各50粒）を行い、蝶などの害虫予防に防虫ネットを張り、万全の形で葉牡丹を育てました。

育てる葉牡丹の大きさは15cm～25cmとし、矮化剤を2回～3回散布し、植え付けポットは3号～4号としていました。

<裏面へ続きます>

また、これまでは緩効性肥料のみ使っていましたが、今回は、施肥は緩効性肥料で、追肥は肥料切りを簡単にすべく週1回の液肥（800倍～1,000倍）で育てました。



しかし、下葉が黄色くなり、やっぱり葉数も少なくて上手く育ちません。



手順はほとんど問題ないのですが、日照時間が少なく、風通しが良くないことが分かりました。

来年は、この点を改善し、下記の4点に注意し育苗に挑戦したいと思っています。

- ① 水はけを良くするため、培養土に赤玉土を混合する
 - ② 施肥は緩効性肥料を使用し、追肥は化学肥料で行う
 - ③ 風通しの良いところで育てる
 - ④ 日照時間が1日6時間ある場所で育てる
- 来年は良い苗が出来るかな？

【安東支部】 報告者：上長者 辰雄

梅の名所「梅林公園」「西風梅苑」の開花

立春が過ぎ、暦の上では春ですが、1月下旬から寒さの厳しい日々が続いています。この寒さの中で、春に咲く多くの花に先駆けて、自然界に咲く梅の花は、昔から人々の心をとらえてきました。

「梅一輪 一輪ほどの 暖かさ」



この俳句は、松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪が読んだ有名な句です。この句を「梅が一輪咲き、これを見る

と、かすかではあるが一輪ほどの暖かさが感じられる。」と解すると、寒さの中、ほのかな暖かさにじんわりと心がふるえる様子がうかがえます。

梅は桜などに比べ休眠が浅いため、天候によって開花時期が左右されます。今年は暖冬により全国的に開花時期が早いようで、気象庁は、広島県の梅の開花日を1月30日と発表しました。

安佐南区には、梅の名所として八木の「梅林公園」と西風新都の「西風梅苑」があります。

梅林公園には、紅・白の梅約100本が点在し、



立春の時点で3～5分咲き、梅林公園近くの古川土手に点在する

紅・白の梅

約70本は、3～8分咲きで見頃を迎えています。寒さの厳しい日々が当分続くようですので、見頃は、2月下旬頃まで続くでしょう。また、3月3日(日)には梅林公園で「春こい祭」が開催されます。

西風梅苑は、2014年に日本屈指の作庭家である第16代佐野藤右衛門が造園したもので、約3,300㎡の苑内には梅が約200本があり、その中に樹齢100年以上の樹が20本以上あります。梅の花は赤、白、ピンク色が3～8分咲きで見頃を迎えています。昔から「桜は花を観て、梅は樹を観る」と言われており、寒さの中に凜と咲く梅の花とともに梅の樹を觀賞し楽しむことができます。

例年、西風梅苑は、2月下旬頃に一般公開が行われていましたが、本年はその計画は無いようです。しかし、苑の外周からでも、苑内の梅の花・樹を十分に観ることができます。

